

事務事業名		三陸マリアージュ創出・展開プロジェクト		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input checked="" type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業
政策体系	政策名	0 1 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間	
	施策名	0 4 地域経済を支える地場産業の振興		区分	
	基本事業名	0 1 地場産業の育成・経営支援		単年度繰返	
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入	
所属	部課名	商工港湾部産業政策室		【開始年度】	
	課長名	鈴木 宏延		-	
	係名	-		年度～	
	担当者	佐藤 大基	電話 0192-27-3111	-	
			内線 105	事務事業区分	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				A 政策事業	
<p>当市に関心のある首都圏の住民が、気軽に立ち寄り、特産品や情報を入手できる窓口となる大船渡ふるさと交流センター「三陸SUN」において、大船渡産の商品を発信して消費拡大を図り、地元事業者の売上向上につなげるとともに、観光情報発信、UIJターン等移住相談等を通じて来訪や移住の促進を図る。</p> <p>(1) 大船渡ふるさと交流センター管理運営 (2) 「三陸マリアージュ」商品の企画・販路開拓 (3) 「三陸SUN」を起点とする流通の共同化</p>				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金			
		都道府県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源			
	事業費計(A)	0			
人件費	正規職員従事人数				
	延べ業務時間				
	人件費計(B)	0			
トータルコスト(A)+(B)				0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
前年度実績(前年度に行った主な活動) ・情報交換や商品PR等	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア ふるさと交流センター「三陸SUN」来店者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>イ 「三陸マリアージュ」商品開発に取り組んだ事業者数(関わった・協力した)</td> <td>事業所</td> </tr> <tr> <td>ウ 「三陸マリアージュ」商品に係るイベント企画出展件数</td> <td>件</td> </tr> </table>	名称	単位	ア ふるさと交流センター「三陸SUN」来店者数	人	イ 「三陸マリアージュ」商品開発に取り組んだ事業者数(関わった・協力した)	事業所	ウ 「三陸マリアージュ」商品に係るイベント企画出展件数	件
名称	単位								
ア ふるさと交流センター「三陸SUN」来店者数	人								
イ 「三陸マリアージュ」商品開発に取り組んだ事業者数(関わった・協力した)	事業所								
ウ 「三陸マリアージュ」商品に係るイベント企画出展件数	件								
今年度計画(今年度に計画している主な活動) ・情報交換や商品PR等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 地元小規模事業者、首都圏の飲食店・小売店	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ ふるさと交流センター「三陸SUN」における取扱商品数</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>キ 「三陸マリアージュ」商品企画・試作品開発数</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>ク 「三陸マリアージュ」商品に係るイベント企画出展での商談件数</td> <td>件</td> </tr> </table>	名称	単位	カ ふるさと交流センター「三陸SUN」における取扱商品数	点	キ 「三陸マリアージュ」商品企画・試作品開発数	点	ク 「三陸マリアージュ」商品に係るイベント企画出展での商談件数	件
名称	単位								
カ ふるさと交流センター「三陸SUN」における取扱商品数	点								
キ 「三陸マリアージュ」商品企画・試作品開発数	点								
ク 「三陸マリアージュ」商品に係るイベント企画出展での商談件数	件								
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 三陸地域の食品などを組み合わせた「三陸マリアージュ」商品を開発するとともに、首都圏の飲食店・小売店と地元事業者との新たな流通経路の確立を図る。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 首都圏への流通経路の確立を実現し、食関連産業の競争力強化、さらには雇用の場の確保につながる。	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ ふるさと交流センター「三陸SUN」を通じた商品売上額</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>シ 新たに開発した「三陸マリアージュ」商品数</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>ス 「三陸マリアージュ」商品に係る発表会・商談会等を通じて商談が成立した事業者件数</td> <td>件</td> </tr> </table>	名称	単位	サ ふるさと交流センター「三陸SUN」を通じた商品売上額	千円	シ 新たに開発した「三陸マリアージュ」商品数	点	ス 「三陸マリアージュ」商品に係る発表会・商談会等を通じて商談が成立した事業者件数	件
名称	単位								
サ ふるさと交流センター「三陸SUN」を通じた商品売上額	千円								
シ 新たに開発した「三陸マリアージュ」商品数	点								
ス 「三陸マリアージュ」商品に係る発表会・商談会等を通じて商談が成立した事業者件数	件								

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	単位	年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)
		単位						
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円	15,243	14,733	0	0	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	26,303	21,617	54	0	0	0
	事業費計(A)	千円	41,546	36,350	54	0	0	0
人件費	正規職員従事人数	人	1	2	1	1	0	0
	延べ業務時間	時間	100	200	48	12	0	0
	人件費計(B)	千円	400	800	192	48	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	41,946	37,150	246	48	0	0
⑤活動指標	ア	人	5,817	13,320	10,330	5,324	-	-
	イ	事業所	13	10	-	-	-	-
	ウ	件	2	3	-	1	-	-
⑥対象指標	カ	点	426	834	803	537	-	-
	キ	点	15	14	-	-	-	-
	ク	件	99	33	-	1	-	-
⑦成果指標	サ	千円	13,591	27,727	26,164	12,842	-	-
	シ	点	8	12	-	-	-	-
	ス	件	13	1	-	1	-	-

事務事業ID	1781	事務事業名	三陸マリアージュ創出・展開プロジェクト
--------	------	-------	---------------------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	<p>平成28年度から国の地方創生交付金を活用し、関係機関・団体等の連携により、移住促進などの必要な受入体制の構築を図るとともに、首都圏内に大船渡市ふるさと交流センター「三陸SUN」(H29.3月)に開設し、当市をメインとする三陸沿岸の水産加工品を中心に菓子・飲料・酒類等を対面販売の提供を行ってきた。</p> <p>令和元年度以降は、大船渡市ふるさと交流センター「三陸SUN」の店舗機能を活用して、取扱商品の需要や流通ルート等の調査を実施しながら、「三陸マリアージュ」のコンセプトを確立し、コンセプトに基づく商品企画・試作開発を行うとともに、地元事業者との新たな流通経路の確立を目指すこととした。</p>
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	<p>東京都杉並区高円寺に開設した大船渡ふるさと交流センター(三陸SUN)は、新型コロナウイルス感染症等の影響により、令和3年3月に東京都杉並区高円寺へ移転した。</p> <p>社会情勢の変化やインターネット販売、ふるさと納税の拡大等の影響により、来店者が減少し、売上も減少していることに加え、物価高騰等の影響で仕入れ単価や光熱費等の経営コストが増大などの事由から、令和5年11月20日をもって施設を閉店するに至った。「三陸マリアージュ」商品の普及啓発・販路拡大については、商品開発を行った事業者が主体的に取組を進めている。</p>
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	<p>地方創生推進交付金事業(3年間)として、適正な業務管理はもとより、業務内容に見合った相応の成果をあげることや、適正な業務管理はもとより、令和4年度から民間業者による自走化が図られるよう、事業を展開すべきであるといった意見や要望等が寄せられている。</p> <p>大船渡市ふるさと交流センター「三陸SUN」は閉店したが、「三陸マリアージュ」商品の普及啓発・販路拡大については、首都圏等で販売できる仕組みは非常に重要との意見が寄せられている。</p>

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつかか？意図することが結果に結びついているか？ まち・ひと・しごと創生総合戦略は、市総合計画における各分野の個別計画と基本的な考え方を共有しており、市の政策体系に結びついている。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ まちづくりに関する政策・施策の推進は、行政が主体となるものが多いが、官民連携の視点に立った事業も進行している。官民連携においては、民間が自立して実施することが重要であるが、伴走しながら支援していくことが必要である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 総合戦略等に位置付けられた事業であることから、地域の活性化が期待でき、移住定住や交流人口拡大にも結び付き、波及効果も見込まれるものであることから、地方創生や地域活性化の観点から妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 事業の進捗を適正に管理しながら取組を推進し、成果向上につなげていたが、大船渡市ふるさと交流センター「三陸SUN」は、令和5年11月20日をもって閉店した。「三陸マリアージュ」商品の普及啓発・販路拡大については、商品開発を行った事業者が主体的に取組を進めている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がない <input type="checkbox"/> 影響がある <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 地方創生推進事業は、国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づく令和3年度までの事業であり、令和4年度から民間業者による自走化に移行したが、大船渡市ふるさと交流センター「三陸SUN」は、令和5年11月20日をもって閉店した。「三陸マリアージュ」商品の普及啓発・販路拡大については、商品開発を行った事業者が主体的に取組を進めている。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 令和4年度から民間業者による自走化に移行しており、経費節減が図られている。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 令和4年度から民間業者による自走化に移行しており、経費節減が図られている。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 地域経済循環の促進と、地域の独自性を活かした商品のブランド化を図る事業であり、その目的につながるように事業を進めていることから、受益機会・費用負担は公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																					
3 終了・廃止・休止  ※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。(現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」)(終了・廃止・休止の場合は記入不要)	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×	当該事業は、地方創生推進交付金を活用して実施してきたが、令和3年度をもって国の支援が終了し、令和4年度から民間業者による自走化に移行したが、大船渡ふるさと交流センター「三陸SUN」は令和5年11月20日をもって閉店した。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
3 終了・廃止・休止	大船渡市ふるさと交流センター「三陸SUN」が令和5年11月20日をもって閉店したことに伴い、「三陸マリアージュ」商品の普及啓発・販路拡大については、商品開発を行った事業者が主体的に取組を進めている。今後は、その取組に対して助言や情報提供等の支援に努めていく必要がある。